

出産後母子分離が予測される妊婦に対する新生児治療室見学の内容について

キーワード：母子分離、NICU、見学、不安、心理

中村 早智（東入院棟5階）

I. はじめに

当院には、治療が必要な新生児を管理する新生児治療室がある。年間728件の出生のうち24%が入室し、母子分離となる。面会后、「どのような場所かわからなかったから不安だった」「チューブが繋がっていて驚いたけど、赤ちゃんの状態がみられて安心した」との発言を聞く事があり、児がおかれる状況がわからないまま母子分離となる事に不安を感じる褥婦も多い。橋本らの研究において、NICU見学により不安が軽減し、児の健康的なイメージ作りに良い影響をもたらしている¹⁾事が明らかになっているが、その指導内容について検討した先行研究は少ない。よって本研究では出産前の新生児治療室の見学を実施し、その効果と妊産褥婦のニーズに合わせた説明内容を明らかにする。

II. 用語の定義

新生児治療室：34以降36週未満の出生や母体インスリン使用等の新生児を対象に呼吸や循環機能などの管理を行う専門的な集中治療室。

新生児治療室見学：新生児治療室へ訪問し、産科スタッフから説明を受けることとする。

母子分離：母親と新生児が物理的に離れていることとする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：事例研究

2. 研究期間：平成28年9月～10月

3. 対象者

出生後、当院の新生児治療室に入室が決定、若しくは予測されており、初めて新生児期の母子分離を経験する妊婦3名程度である。

4. 研究方法

説明時間は15分程度で実施。説明内容は先行研究を参考に「面会方法」「入室方法」「部屋の説明」「児との関わり方」「ケアの内容」「退院までの流れ」とする。実施後の効果について、半構造的面接法を用いて面接を実施する。

5. データ収集方法

新生児治療室見学直後と産後3～5日目の2回、プライバシーが確保できる個室で半構造化面接を行った。面接は、「見学を行った時期について」「新生児治療室見学を出産前に行う事について」「新生児治療室見学時に説明した内容について」「その他聞きたい内容」を元に、研究参加者の思うままに語ってもらった。研究者は、言語的・非言語的な促しによって、研究参加者の自由な語りが引き出せるように努めた。

6. 分析方法

- ① 面接終了後、面会内容を文章形式に直し記述内容を繰り返し読み、研究参加者の印象をつかむ
- ② 記述内容から、新生児治療室見学の内容に関連する重要な語りを抽出する
- ③ 抽出した語りの意味を明らかにし、「面会方法」「入室方法」「部屋の説明」「児との関わり方」「ケアの内容」「退院までの流れ」に分類する

上記に分類されないものはテーマ付けを行い内容の検討をする

IV. 倫理的配慮

当院の倫理委員会の承認を受けた。対象者に研究の内容と目的を説明し、参加は任意であり辞退した場合も不利益を得ない事を伝えた。また個人情報に配慮し本研究以外には使用しない事を伝え、同意を得た。

V. 結果

1. 研究参加者の概要

研究参加者の概要を表1に示した。

研究参加者の年齢は30代、在胎週数は37週であった。データ収集を行った3名のうち、実際に新生児治療室に入室したのはAとBの2名であり、新生児治療室の入室理由は、Aは出生体重が2300g未満であり、Bは母体インスリン使用であった。出産方法はAが帝王切開、Bが経膈分娩であった。

新生児治療室の見学と初回面接の時期は出産の前日であり、2回目の面接は産後4～5日

であった。

今回の研究では児の出生体重が2300g以上であり、新生児治療室に入室しなかったCは対象者外とする。

表 1. 研究参加者の概要

	年齢	在胎週数	既往	治療室入室の可能性の理由	出産方法	実際の治療室の入室
A	30代	37週	PIH	双胎、推定体重2200g台、1900g台	帝王切開	2児ともあり
B	30代	37週	GDM	母体インスリン使用	経膣分娩	あり
C	30代	37週	なし	推定体重2100g台	帝王切開	なし

2. 面接結果

面接結果について別紙に示した。

新生児治療室の見学を行った時期については、2名とも「出産前に赤ちゃんが行くところについて知る事ができたので良かった」と答えている。

新生児治療室の見学を出産前に行う事について、直後と退院前ともにあった方が良いという意見であり、「実際に見てイメージがわいた」「心の準備ができた」「家族に情報が伝えられて良かった」と答えた。

見学直後も退院前も2名とも「面会方法」「入室方法」「部屋の説明」「児との関わり方」「ケアの内容」「退院までの流れ」の項目すべてにおいて「説明を受けて良かった」と答えた。「面会方法」については、「自分が先に退院した場合はどうしたら良いですか?」「家族に伝えることは覚えておこうと思って聞いていた。」と答えた。「部屋の説明」については、「どんな部屋にいくのかわからなかったからイメージがついた。」「テレビのイメージで、もっと壮絶な所だと思っていた。イメージが出来てよかった。」と答えた。「児との関わり方」については、「治療室に入院していても直接授乳ができる事がわかって良かった。」「触り方とかわかって良かった。」と答えた。「退院までの流れ」については、退院の目安等の多数質問があった。

また、見学直後の面接では母体インスリン使用のために新生児治療室に入室したBから、「自分の病気があって、赤ちゃんの症状がだ

いたいイメージがついているから、自分の赤ちゃんの流れをもっと聞きたい」との意見があった。

その他の質問について、「搾乳は何回、どんな風にするのか?」「何を始めれば良いかわからなかった。」という意見があった。

説明内容について、見学直後の面接では説明内容を2名とも覚えていた。しかし、退院前の面接では、「見学には行ったが説明についてはあまり覚えていない」と答えた人が1名、「覚えている」と答えるも、内容について確認すると記憶が曖昧であった人が1名であった。

VI. 考察

出産前に新生児治療室の見学を行う事は、2名とも肯定的であった。「どんなところに行くかわからず、見たいと思っていた」との意見からも、妊婦のニーズがあることがわかる。メディアのイメージもあり、妊婦は児が新生児治療室に入室することに不安を感じているが、実際に入院している新生児や部屋の雰囲気、機材類を見ることで産後の児をイメージする機会となっており、「心の準備ができた」との意見から不安の軽減にもつながっている。橋本らの研究においても、予期的指導であるNICU見学により不安が軽減し、妊娠継続に意欲を示し、児の健康的なイメージ作りに良い影響をもたらしている¹⁾事が明らかになっている。森らの研究においてもNICUの見学により不安が軽減されており²⁾、出産前の新生児治療室の見学が有用であることが今回の研究でも明らかとなった。

説明内容について、見学直後も退院前も2名とも「面会方法」「入室方法」「部屋の説明」「児との関わり方」「ケアの内容」「退院までの流れ」の項目すべてにおいて「説明を受けて良かった」と答えており、説明内容は適切であったといえる。中でも、「部屋の説明」「児との関わり方」「退院までの流れ」については対象者からの質問が多かった。「もっと壮絶な所と思っていた」「保育器に入っていたら触れないと思っていた」との答えから、妊婦は見学前に自身の不安なイメージを持っており、実際に産後のイメージ作りにおいてもニーズが高い項目であると考えられる。また、自身だけでなく事前に見学ができない家族に対する思いも強く、退院前の面接では、説明内容についての意見で「家族に伝えることは覚えておこうと思って聞いていた」と答えた人が

おり、「面会方法」についてもニーズが高いことがわかった。橋本らの研究においてもこれらの項目は説明を希望する妊婦が多く¹⁾、重点を置く必要がある。

今回の研究では説明内容を統一しており、呼吸障害や医療機器の装着等、どの児にも起こりうる内容であった。すべての項目について説明してほしいという結果ではあったが、対象者の児が新生児治療室に入室する理由を考慮して個別性のあるケアが求められる。

その他の質問において、母子分離中の授乳についてや育児の流れについての質問があった。新生児治療室に入室し母子分離となる事に加え、児の状態が安定するまでは直接授乳をすることは不可能である。仲村らは NICU に入院している母親の母乳についての意識と授乳の実際について研究し、母乳栄養に対する希望と実際の授乳状況に違いがある³⁾事がわかっている。新生児治療室を見学し、保育器の中にいる新生児を見て想像していた授乳のイメージが不可能である事に気付く妊婦も多いと考えられる。母乳育児により親子の絆が強められ、双方の愛着が形成されて基本的信頼関係が育まれる⁴⁾ため母子分離を経験する母親にとって授乳は母親と児を繋ぐ重要なものである。よって、今後は母子分離中の授乳方法を含めた「産後の育児のながれ」についても説明内容に追加する必要がある。

退院前の面接において、新生児治療室の見学時に行った説明内容は産後には記憶に残らない事がわかった。産褥早期は急速な身体的、社会的および情緒的転換の時期である。⁵⁾出産という大きなイベントを乗り越えると同時に慣れない育児がスタートしており、産後にも様々な説明を受ける中で、出産前に行う新生児治療室見学時の説明内容を鮮明に覚えておくことは難しいと考える。当院では産後、初回の面会時に助産師が案内をして説明を行っている。出産前の説明内容は覚えていなかったが、対象者から産後や面会の際に困った事等の意見はなく、不具合は生じていない。

「見学に行っても良かった」「すべての項目を説明してほしい」との答えから、妊婦のニーズはあり、産後のイメージ化や心の準備の点でも出産前の説明内容は必要であるといえる。

4. 本研究の限界と課題

本研究は対象者が2名であり、当院の新生児治療室では在胎週数が34週未満の新生児は対象としていないという点で限界があり、

研究結果を一般化することは難しい。今後はさまざまな背景の対象者での質的研究をすすめていくとともに量的研究も必要と考える。

VII. 結論

1. 出産前の新生児治療室の見学は産後の児をイメージする機会となり、不安の軽減にもなっているため有用である。
2. 出産前は全ての説明項目において有用である。「部屋の説明」「児との関わり方」「退院までの流れ」「面会方法」の項目については特にニーズが高く、新たに「産後の育児のながれ」を追加する必要がある。また説明内容には聞き手の合併症を考慮した個別性が求められる。
3. 新生児治療室の見学時に説明した内容の詳細は出産後には記憶に残らないが、産後の面会時への影響はない。

謝辞

稿を終えるにあたり、本研究にご理解頂き、調査に快くご協力くださいました妊婦様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 橋本絵理・江藤菜々恵・石井理恵：ハイリスク妊婦に対するNICU見学の有用性の検討，第43回日本看護学会論文集小児看護，p21，2013
- 2) 森聡子・中村公紀・木下竜太郎・太田栄治・堤信・雪竹浩・瓦林達比古・満留昭久・廣瀬伸一：福岡大学病院における出生前訪問の試みー母親へのアンケートを通してー，第19回2号日本未熟児新生児学会雑誌，p89，2007
- 3) 仲村美津枝・島袋理江子・山城貴子・大城美奈・高江洲なつ子・伊敷和枝：低体重児を出生した母親の母乳についての意識と授乳の実際，第42巻4号 母性衛生，p621，2001
- 4) 一浦麻子：母乳育児に関する諸問題と母乳育児支援に関する一考察，駒沢女子大学研究起要，第21号，p325~335，2014
- 5) 和部山キヨ子・武谷雄二他：助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期，医学書院，p266，2013

参考文献

- 1) 川島麻美・佐田富浩子・山口真由美・吉田ひとみ：ハイリスク妊婦への出産前NICUオリエンテーションの現状調査，佐賀大学医学部附属病院NICU，p89，2007

＜資料1 面接結果＞

1. 新生児治療室の見学を行った時期	<p>＜直後＞</p> <p>A：赤ちゃんがどんなところに行くのかわからず、見たいと思っていたので出産前に見る事が出来て良かった。</p> <p>B：良かった。</p> <p>＜退院前＞</p> <p>A：手術前に知れて良かった。</p> <p>B：良かった。</p>
2. 新生児治療室の見学を出産前に行う事について	<p>＜直後＞</p> <p>A：実際に入院している赤ちゃんを見て、大きさや、モニターがついているのとか、実感がわいて良かった。</p> <p>B：テレビのイメージで、もっと壮絶な所と思っていた。イメージが出来て良かった。</p> <p>＜退院前＞</p> <p>A：家族に、夫は入れる事や祖父母は外から見学できる事を伝えることが出来て、準備ができたのは良かった。</p> <p>B：心の準備が出来た。どのような所かもわかって、見学に行けて良かった。</p>
3. 説明した内容について	<p>＜直後＞</p> <p>「面会方法」</p> <p>A：よくわかった。自分が先に退院した場合は、退院後の面会はどうしたら良いですか？</p> <p>B：良かった。</p> <p>「入室方法」</p> <p>A：わかった。</p> <p>B：わかった。</p> <p>「部屋の説明」</p> <p>A：どんな部屋に行くのかわからなかったからイメージがついた。</p> <p>B：テレビのイメージで、もっと壮絶な所だと思っていた。イメージが出来てよかった。</p> <p>「児との関わり方」</p> <p>A：保育器に入っていたら触れられないと思っていた。窓があって、おむつ変えたりできるとわかって良かった。</p> <p>A：治療室に入院していても直接授乳ができる事がわかって良かった。</p> <p>B：触り方とかわかって良かった。</p> <p>「ケアの内容」</p> <p>A：おむつ変えたりしてくれるんですね。</p> <p>B：覚えている。</p> <p>「退院までの流れ」</p> <p>A：退院はコットに出てからどのくらいかかるのか？目安はあるか？産科にきて一緒に過ごす事もあるのか？</p> <p>B：全部聞いて良かった。自分の疾患があるので、自分の赤ちゃんの流れをもっと聞きたい。</p> <p>＜退院前＞</p> <p>「面会方法」</p> <p>A：あまり覚えていない。家族に伝えることは覚えておこうと思って聞いていた。</p> <p>B：説明を受けて良かった。</p> <p>「児との関わり方」</p> <p>A：赤ちゃんに触れられないと思っていたので、赤ちゃんに触って良いんだというのが印象的で聞いて良かった。</p> <p>B：覚えている。説明を受けて良かった。</p> <p>「入室方法」「部屋の説明」「ケアの内容」「退院までの流れ」</p> <p>A：あまり覚えていない。</p> <p>B：覚えている。説明を受けて良かった。</p>
その他	<p>＜直後＞</p> <p>A：搾乳は何回、どんな風にするのか？退院後は搾乳をどのようにしたら良いか？→「搾乳について」</p> <p>＜退院前＞</p> <p>A：面会していない時、赤ちゃんはどのように過ごしているのか？</p> <p>A：育児のスタートがわからなかった。何をいつから始めればよいのかわからなかった。→「産後の育児の流れ」</p>